

ふだんの動作の中にも、手話があります

ふだんの生活の中で何気なく使っている動作の中にも、手話がかくれていることがあります。みなさんは、「OK」と言うときに親指と人さし指でマルを作ったり、「ダメ」と言うときには両手を×の形に交差したりしますね。それらのジェスチャーは、手話としても使われているのです。「手話はむずかしそう…」と思っている人は、このようなかんたんなジェスチャーから始めてみてはいかがでしょうか。



こんな動作、したことがあるよね！
これも手話の一つです

わたし



あなた



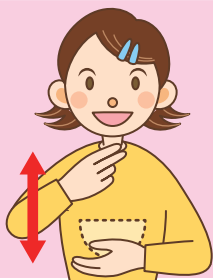
OK



だめ



食べる



飲む



暑い



寒い



まめ知識

「頭をなでなで」は、
「愛しています」

大好きなペットや、子供の頭をなでなで……。これも、ふだんの生活でよく目にする動作です。このしぐさが「かわいい」という手話になっています。さらに「かわいい=愛おしい」ということで頭に見立てた手の甲を愛おしそうになでるしぐさが「愛する」という手話です。

「かわいい息子」



片手の親指が「男の子=息子」を表します。親指の上で手をなでるように回します。

「愛しています」



頭に見立てた手の甲の上でもう片方の手をなでるように回します。

手を回す回数や強弱で、「愛情」の度合いが表現できるよ！



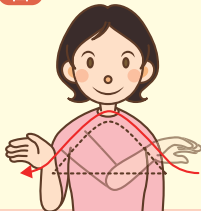
手話のしくみを知ろう

手話は、手の形、位置、動きの方向や大きさ、顔の表情^{ひょうじょう}やからだの動きを使って意味を表します。文を作るときは、日本語の順番で単語をつなぐ場合もありますが、手話は言語^{ごんご}でもありま^{どくじ}すので、独自の文法もあります。

手話単語のなりたち例

1 形から

山



山の形にそって片手を動かします。

家



両手で屋根の形を作ります。

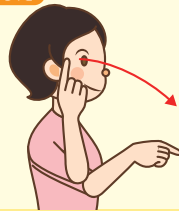
2 動作の方向や位置から

きのう



人さし指を顔の後ろに動かすと「きのう」。

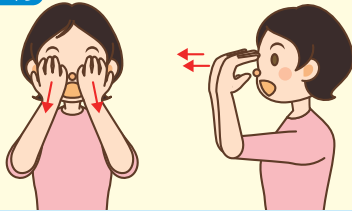
あした



人さし指を顔の前に動かすと「あした」になります。

3 使いなれた言い方(慣用句)から

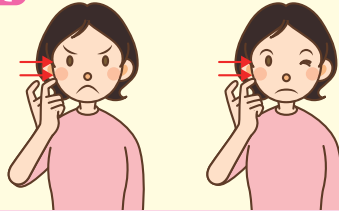
びっくり



両手の5本の指を折り曲げて両目に向け、同時にすばやく前へ引きます。びっくりして「目玉が飛び出る」表現^{ひょうげん}からきています。

4 顔やからだの表情から

うそ



片手の人さし指で、ほほをつつきます。怒った顔だと「よくもうそを言ってだましたな!」という意味になります。また、「あれはうそだよ」と伝えるときや、「それはうそだろ」というニュアンスのときに片目をつぶることがあります。

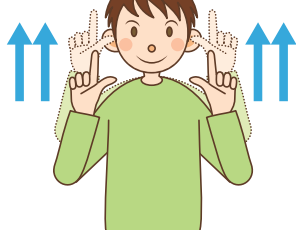


→ 3ページの答えは、

A

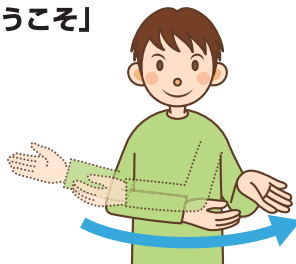
「ようこそ、東京へ！」です。

「東京」



両手の人さし指を上、親指を横にのぼして、上に2回上げます。「東」からのぼる太陽からきています。

「ようこそ」



お客様をおくへお通しするように、両手のひらを上に向けて、右から左へ動かします。(または左から右へ)



まめ知識

さとう 佐藤さんは、砂糖さん!?

人の名前の手話は、①漢字の形、②ものの特徴、③同音異義語(読み方は同じだが別の意味を持つことば)、④歴史上の人物の特徴などをもとにしています。たとえば「佐藤」は、あまい砂糖と同じ読み方なので、「あまい」という手話で表現します。

「佐藤」

「砂糖」



片手のひらを口の前で、2回まわします。「砂糖」「あまい」も同じ表現です。

おもしろいね!



手話を覚えるときに大切なこと

手話は、からだ全体を使っていろいろな^{ひょうげん}表現をします。ここでは、手話を覚えるときに知っておきたい手話の特徴について紹介します。

ばんざーい!!



ふだんの「しぐさ」を取り入れる

手話で「よろこぶ」を表現するより、「ばんざーい!!」と両手を上げてよろこぶほうが、うれしい気持ち^{きもち}を伝えられることもあります。

怒ったときは、
怒った顔で!



かんじよう感情をすなおに表現する

「悲しい」ときは泣き、「うれしい」ときはニコニコしてください。自然な感情表現を大切にすることが手話上達の近道です。

わかりやすく
表現してね



遠回しの表現はしない

たとえば日本語では、相手に何かをお願いするとき、「今、手があいていますか?」というたずね方をします。でも、手話で文字どおりに「手があく」と表しても伝わりません。この場合は、「今、いそがしい、ヒマ、どっち?」と聞くほうが伝わります。

目上の人を表すときは、
手を自分の目より上に



位置で意味を表す

兄と弟、姉と妹は、手の形が同じですが、兄・姉は上に、弟・妹は下に位置することで、意味の違いを表現できます。目上の方は、自分の目より上に手を置きます。